

## 和歌山県海南市

### 大崎地区の歴史と現状を体験的に調べ、

### 暮らしを継続的なものとするためのステップを議論する



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:7名

(1年生:2名、2年生:5名)

活動期間:2023年5月~2025年1月

担当教員:遠藤理一、八島雄士

#### 1. 活動実施の経緯

大崎地区の地域の魅力の発見と活性化を目指す有志のグループ「げんき大崎」によれば、大崎地区の魅力は海と山が接近した自然環境と港町として栄えた歴史・地理にあるという。また、特徴的なつぼ型の大崎湾と泳いで渡るとも可能な無人島(弁天島)は、地区の暮らしを持続的なものとする資源の1つとも考えられている。これらの魅力を発信すべく、新鮮な野菜や鮮魚等の朝市、食事等を提供できる施設「げんき大崎館かざまち」に加え、2022年には「一棟貸し宿 百船人」がオープンした。

こうした状況を踏まえたうえで、地区住民と学生が議論し、若者・よそ者視点の発想から新たなアイデアを出してほしいという想いから活動がスタートした。

#### 2. 活動の内容

①大崎でのイベントへの参加:1)大崎での季節ごとの祭りに参加し大崎の名物を用いた料理を製作し出店した。その際に地域の方々との交流を図った。2)地域側の協力団体であるげんき大崎で開催されている魚屋の手伝いに行った学生もいた。3)大崎の施設に宿泊し地域の方との料理やカヤックなどを楽しんだ。

②学園祭での出店:学園祭に出店しげんき大崎で製作された商品と学生によるたこ焼きを販売し、大崎をPRした。

③大崎ガイドブックの作成:学生間の打ち合わせや大崎とのやりとりを通じ大崎地区の概要、観光スポット、地域についての回想、季節ごとの生業や祭祀、食などの移り変わりを表現したフェノロジーカレンダー、またLPPでの活動などをまとめた、大崎ガイドブックを作成し出版した。

#### 3. 活動を通じて

学生にとっては活動を通じ、大崎の方にお世話になりながら、地域の方とのつながりを感じる機会となっていたと思われる。また学園祭での出店やガイドブックの作成など根気がいる作業を続ける中で、協働の難しさや達成感を感じたと思われる。一部の学生にとっては、主体的に活躍し、さらに実力や自信をつけていく機会ともなっていた。

## 4. 成果ポスター

# 海南市大崎LPP

**大崎地区の歴史と現状を体験的に調べ、暮らしを持続的なものとするためのステップを議論する**

観光学部2年 宇田朱純、柏木大和、加田瑞稀、村井美南、渡邊真優

観光学部1年 東彩花、山口あいり



## LPPについて

私たちは海南市の中でも北西にある大崎地区を主な活動地としています。活動は大崎でのイベントをお手伝いしたり、今年は昨年度から制作を続けてきた大崎ガイドブックの完成を目指したりなど積極的に活動をしました。また、大崎LPPのインスタを創設し、魅力を発信したり、大崎の魅力を多くの方に知ってもらうために、大学祭での模擬店出店にも挑戦したりなどしました。

## 宿泊体験

6月28日、29日に実際に大崎を訪れ宿泊研修を行いました。

1日目はかざまちのピザ窯をお借りして大崎の皆さんに手伝ってもらいながらピザパーティを開き、皆さんのお話を伺いました。次の日は朝シーカヤック体験をさせていただき午後は頂いたお魚とかざまちのお弁当をいただきました。この2日間の貴重な体験を通してとても有意義な学びを得ることができました。



## ブルーベリー

今年度も大崎で一般の方向けにブルーベリー摘み取り体験が行われました。私たちも体験のサポートをまわるとともに今年はブルーベリーを使ったスムージーを販売しました。スムージーの開発のために何度もミーティングや試作を重ね、当日は多くの方に良い評価をいただきました。大崎のブルーベリーを最大限活かすにはどうすればよいか全員で考え、販売するという貴重な経験をすることができました。



## 大学祭

11月17日の大学祭2日目には、かざまちのタコ焼き機をお借りして、大崎産の地だこを使って作ったたこ焼きを販売しました。最初は、時間が足りなかったり、焦がしてしまったりと思い通りに販売を進めることができませんでした。しかし、徐々に上達していき、目標販売数を超えることができました。大学祭をやり遂げたことで、達成感を感じ、皆と喜びを共有できたため、かけがえのない思い出になりました。



## ガイドブック

昨年度から制作を続けてきた大崎ガイドブックが完成しました。制作するにあたり、文章の構成やレイアウトなど自分たちで考え、誰もが大崎を訪れたいくなるようなものになるように制作をしました。このガイドブックには私たちが考える大崎の魅力や私たちの大崎に対する思いがたっぷり詰められています。たくさんの方にこのガイドブックを手にとってもらって大崎の魅力を感じてもらい、「実際に行ってみよう！」と感じてもらえれば、とてもうれしいです。



## まとめ

昨年度から制作を続けてきた大崎ガイドブックが完成し、多くの人に大崎の魅力について知ってもらいいいきっかけになりました。また、大学祭での模擬店出店は準備から始まり、大変なことがたくさんありましたが、大崎の方々やメンバーと力を合わせて、素晴らしい一日にすることができました。私たちにとって、大崎はふるさとのような場所であり、心の拠り所でもあります。今後も、この素晴らしい場所が永続的に地域の方に愛されるだけでなく、より多くの方に愛される場所になることを目標に活動を続けたいです。

## 4. 2024 年度合同活動報告会の実施

### 2) 発表の実施報告

本会では、各報告時間に2プログラムずつ、別のエリアで発表を行った。当日の振り返りと報告のため、後日、各プログラムの発表の様子や、アンケートフォームで回収したご意見・ご質問に対する回答をまとめた報告書を参加学生が作成した。

#### 和歌山県海南市

テーマ:大崎地区の歴史と現状を体験的に調べ、暮らしを継続的なものとするためのステップを議論する

##### ●報告について

報告会では、一年間活動を行ってきたことのまとめなどを中心に話した。ただ、まとめを話すだけでなく、私たち LPP メンバーが抱く大崎に対する思いを含めて、お話をできたことがとても良かった。また、昨年度から制作を続けてきた大崎ガイドブックをこの場を借りて初めて披露させていただき、多くの人に手に取ってもらうことができた。

この発表を通して、改めて自分たちの大崎にある魅力や価値を再認識できたし、多くの方にその魅力を少しだけでも感じ取ってもらえたのではないかと考える。そして交流会では、ガイドブックや大学祭での模擬店出店について興味を持っていただいた方が多く、より詳しい内容をお話するなど、メンバー全員で交流を深め、よい話し合いをすることができた。

##### ●質疑応答

Q.ガイドブックは今後どのような形で配布していくのか。

A.メインとしては大崎の方々(住民の方)に配布することであるが、観光学部棟の配布物コーナーに何部か置かせていただき、外部の人にも手に取ってもらえるような形にする。

Q.インスタを開設したと話していたが、具体的にどのような運用を行っているのか。

A.昨年の夏ごろに開設したばかりなので、それほどフォロワーは多くありませんが、自分たちの活動や思い出を中心に投稿している。今後もたくさん情報を発信していくつもりであるのでぜひ多くの方に見ていただきたいし、フォロワー増加に向けた取り組みを行いたい。